

[成果情報名] ピラミッドアジサイ鉢花の新梢剪定および施肥法による低樹高化と開花期調節

[要約]ピラミッドアジサイ‘ライムライト’の鉢花栽培では、新梢3本を2節残して剪定、または施肥を第8節萌芽期に行うことにより、花茎の伸長を抑制し樹高を低く抑えることができる。また、剪定を行うと開花期を20日程度遅らせることが可能である。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・高冷地振興セ・花き応用育種科・穴澤拓未

[分類] 技術・参考

[課題の要請元] 総合農業技術センター(旧農業技術普及部)、山梨県花き園芸組合連合会

[背景・ねらい]

ピラミッドアジサイの鉢花は、樹高が高いことから外観品質や輸送面より草姿の改善が求められている。また、開花期が鉢花需要の少ない夏季に咲くという課題がある。そこで、主要品種‘ライムライト’の2年生5号鉢栽培において、剪定および施肥法による樹高や開花期等への影響について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 新梢3本を5月中旬(第3節展葉時)に2節残した位置で剪定することにより、樹高は50cm以下となる(表1、図1、2)。
2. 剪定を行うと開花期が20日程度抑制されることから、敬老の日に向けた需要期に出荷することが可能となる(表1、図1)。
3. 剪定を行うと花茎数が増え、花穂長および花穂幅は小さい草姿となる。(表1)。
4. 基肥を行わず、第8節萌芽期に花き用緩効性被覆肥料70日タイプを5号鉢あたり2g施用することで、樹高は約50cm程度となり、一方で花穂の大きさは慣行区と同等に確保できる(表2)。

[成果の活用上の留意点]

1. 剪定により低樹高化を図る場合、基肥は控えめに管理することが望ましい。
2. 生育初期に土壤水分が過多の場合、徒長するおそれがあるため、灌水に留意する。
3. 本試験は総合農業技術センター高冷地野菜・花き振興センターほ場(北杜市明野町・標高747m)において実施した。鉢上げ後の栽培管理全体は屋外で行い、かん水は手かん水で行った。

[期待される効果]

1. 耕種的な手法によりピラミッドアジサイ鉢花の樹高を調整する場合の参考となる。
2. 剪定による開花期調節により需要の高い秋季に出荷が可能となる。

[具体的データ]

【①剪定試験】

表1 剪定が生育特性に及ぼす影響(2018年)

試験区	開花期 (月/日) (無処理との差) (日)	樹高 (cm)	花茎節数 (節/花茎)	花穂長 (cm)	花穂幅 (cm)	花茎数 (本/株)
剪定区 ^z	8/29 (+20)	47.6	10.6	12.4	11.1	7.1
無処理区	8/9	65.8	11.1	15.4	13.7	3.0

供試材料は'ライムライト'2年生株、5号鉢栽培、処理前に1株あたりの新梢数が3本になるよう摘芽

^z 剪定区は5月中旬に2節残した位置で新梢を剪定。5号鉢鉢上げ時の基肥は花き用緩効性被覆肥料140日タイプ(N-P₂O₅-K₂O=13-14-8)を鉢あたり4g施用

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目				◎ 挿し木		○□ 鉢上げ(3.5号鉢) 施肥						
2年目		× □ 摘芽(前年枝) 鉢上げ(5号鉢) 施肥		△ 摘芽		(無処理区)		開花期				
					x (剪定区) 剪定(新梢)			開花期				

図1 剪定試験の栽培暦

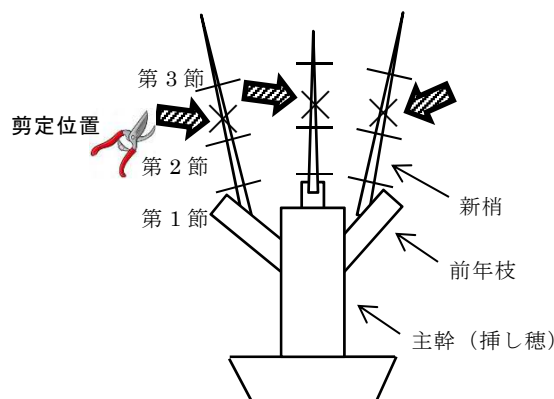


図2 剪定位置の模式図

【②施肥試験】

表2 施肥法が樹高および花穂の大きさに及ぼす影響(2017年)

試験区	施肥時期		樹高 (cm)	花茎節数 (節/花茎)	花穂長 (cm)	花穂幅 (cm)
	基肥	遅施肥				
無施肥区	無	無	42.8	9.7	10.9	9.5
追肥2g区 ^z	無	有	49.4	9.8	17.5	14.1
追肥4g区 ^z	無	有	52.1	9.6	19.7	15.2
慣行区(基肥4g) ^y	有	無	69.4	11.0	17.9	15.8

供試材料は'ライムライト'2年生株、5号鉢栽培、処理前に1株あたりの新梢数が3本になるよう摘芽

^z 追肥区は、基肥を行わず、第8節萌芽期に花き用緩効性被覆肥料70日タイプ(N-P₂O₅-K₂O=13-14-8)を設定量に応じて施用

^y 慣行区の基肥は5号鉢へ鉢上げ時に花き用緩効性被覆肥料100日タイプ(N-P₂O₅-K₂O=13-14-8)4gを施用

[その他]

研究課題名：ピラミッドアジサイ切り花および鉢花の高品質生産技術の確立

予算区分：県単(重点化)

研究期間：2016~2018年度

研究担当者：穴澤拓未、望月寛徳、藤木俊也、赤池一彦